

(研究ノート)

資格取得の優位性についての研究

松 崎 陽 子

はじめに

日本は資格大国であると言われて久しい。学生ばかりでなく社会人になっても、また専業主婦であっても何等かの資格を保有している人や、さらに資格取得を目指している人は多い。社会人にとっては自己のスキルアップを目指し、社内でのキャリアアップや転職に役立てたりする目的があり、主婦も再就職のためにあるいは生涯学習の一環として資格を取得するケースが少なくない。

学生においてもそれは例外ではない。就職活動で内定を得るために、保有資格が役立つと考えている学生は多い。学生のみならず、大学関係者もそのように考えており、在学中の資格取得を勧めている学校がほとんどである。しかし、多くの人々が是認しているように思える資格の優位性、いわば「資格至上主義」はどの程度の蓋然性があるものなのか。長年この疑問を抱えて来たが、可能な範囲で調査してみようと考え、まず金沢市内の4つの金融機関にヒアリングを行い、学生や大学の考えと企業のニーズに齟齬が生じてはいないかを探ってみた。

<目次>

はじめに

- 1 カリキュラムに含まれる資格取得目的の授業
 - 1-1 資格取得奨励は全国的な傾向
 - 1-2 短期大学で取得できる資格・検定
- 2 本学学生の意識と資格取得の実態
 - 2-1 就職活動と資格・検定の取得
 - 2-2 資格・検定の受検状況
- 3 企業の人事担当者へのヒアリング結果
 - 3-1 JA金沢市
 - 3-2 金沢信用金庫
 - 3-3 北國銀行
 - 3-4 しん証券さかもと

おわりに

1 カリキュラムに包含される資格取得のための授業

1-1 資格取得奨励は全国的な傾向

表1は、本学で取得可能な資格・検定の一覧である。学内にエクステンションセンターが置かれていることや、4年制大学と併設されている関係から、短期大学としてはかなり多様な資格・検定を目指すことができ、恵まれた環境にあると言える。筆者は本学に赴任した際に担当していた必修科目の授業で、この中にある「サービス接客検定3級」、「秘書検定3級」、「秘書検定2級」の3つの検定の受検を目標として、1年生を教えていた。4月に入学して2か月後の6月に「サービス接客検定3級」、11月に「秘書検定3級」、翌年2月に「秘書検定2級」を全員が受検するスケジュールである。通年の15回の授業で3つもの検定を受けることになると、授業の組み立てはどうしても実戦的なものにならざるを得ない。

これは資格取得や検定受験を必修の授業としてカリキュラムに取り入れた場合に、当然の帰結となる。前職では4年制大学の経済経営学部で教えていたが、経営学の教員が担当していた授業は年間6コマで、各授業の教科書は販売士（2010年当時。現在はリテール・マーケティング～）の受検テキスト6冊（受検に必要な6分野に対応）であると聞き及び、驚愕したことがある。販売士の資格取得のための授業しか担当していないということになる。これでは、専門学校の教員とどこが違うのだろうかと感じ、また学生にとっても大学での学びという点で問題ではないかと考えたのである。

ところが、就職支援体制について地方の小規模大学を調査した時に、その流れがすでに一般的潮流になっていることが判明した。多くの大学では、上級資格の取得に対して少なからぬ金額の報奨金の制度を設けていた。前述の4年制大学では、販売士1級取得者には15万円の報奨金が出た。筆者が在籍していた5年間に、販売士1級合格者を3年連続で輩出した（1年目1名、2年目1名、3年目2名）。カリキュラムに取り入れて教員が熱心に指導したことと、報奨金制度が着実に効果を生んだというわけである。

(表1) 本学で受検(取得)可能な資格・検定

簿記・会計関連	日商簿記1～3級、全経簿記上級、コンピュータ会計、ビジネス会計、税理士(簿記論、財務論、消費税法)、建設業税理士、電卓計算能力
金融関連	FP2、3級、証券外務員Ⅱ種、金融窓口サービス技能士3級
コンピュータ関連	Word、Excel、Access、ITパスポート、Webクリエイター、イラストレーター、フォトショップ
語学	TOEIC、IELTS公開テスト、日本語検定
医療関連	医療事務、調剤薬局事務
旅行関連	国内旅行業務取扱管理者、総合旅行業務取扱管理者
その他	秘書実務検定、販売士、行政書士、宅地建物取引士、社会保険労務士、ABC(アシスタント・ブライダル・コーディネーター)、手話技能

1-2 短期大学で取得できる資格・検定

次に、短期大学について目を転じてみる。2014年に関東地域の短期大学でヒアリング調査を行ったが、やはりどの学校でも在学中に資格・検定の受検を奨励し、カリキュラムにも取り入れていた。なかには上位資格の取得で、30万円もの高額な報奨金を定めている学校もあった。どのような学部学科であるかにより、取得可能な資格には差があるものの、調査した短期大学で重複していた資格・検定は表2の通りである。ビジネス系の学部、学科を有する短期大学に絞った結果だが、どの学校でも簿記を重要視しているのがわかる。秘書検定も定番の資格であり、女子教育において必要とされる教養やスキルを、検定の合格を目指すための学習によって身に付けることができるという眼目であろう。さらに、資格・検定の合格者であることが、就職活動において有利に展開されるという思惑があることも否めない。

難易度の高い資格・検定であればあるほど、「自主的に目標を定め、それに向かってコツコツと努力を積み重ねることができる」人間ですというアピールをすることができる。資格や検定そのものの価値というよりも、自主性、主体性、チャレンジ精神、継続力、向上心といった長所を証明するものとしての資格であり、検定という考え方である。

なお、ヒアリングを行った短期大学では資格取得のための授業を正課にしているかどうかについては、エクステンションセンターと半々、あるいはすべてエクステンションセンターまたは通信講座で行っているというように様々な形態だったが、多くは卒業必要単位にカウントできるようになっていた。

(表2) ビジネス系短期大学で受検(取得)可能な資格・検定(一例)

簿記・会計関連	全経簿記、日商簿記、公認会計士、中小企業診断士
金融関連	FP3級、FP2級、証券外務員Ⅱ種
コンピュータ関連	情報技術者、Excel表計算、ITパスポート
語学	TOEIC
医療関連	医療事務管理士、メディカルクラーク、ドクターズクラーク、ドクターズオフィスワークアシスタント検定、デンタルアテンダント
旅行関連	国内旅行業務取扱管理者、総合旅行業務取扱管理者
その他	秘書実務検定、販売士、通関士、色彩検定、フードコーディネーター

(※城西短期大学、高崎商科大学短期大学部、東京経営短期大学 2014年現在)

2 本学学生の意識と資格取得の実態

2-1 資格取得を目指す学生が大多数

本学の学生に対して、資格や検定についての意見を聞いてみると、多くは次の2点に集約されている。

- ① 資格を多く持っているほど就職に有利である。
- ② 資格をたくさん取れるということから、金沢星稜大学女子短期大学を進学先を選んだ。

実際に、本学の就職内定率は毎年高い数字を記録しており、県内でも「就職に強い短大」という評判を得ている。就職に際して、学生の履歴書を添削する機会があるが、ほとんどの学生が資格の欄に書ききれないほどの資格・検定を取得しているのが常である。最高で11の資格・検定を有している学生がいて、少なからず驚かされた。また、就職活動のプロセスの中で、何社かの選考に落ちた学生から、「資格の数が少なかったから落ちた」という「反省の弁」を聞かされて愕然としたこともある。

短期大学は2年という短い修学期間の中、授業に出席し、資格・検定のための学習をし、自動車教習所に通い、アルバイトをこなすというハードスケジュールとなっている学生がほとんどである。それ以外に、何等かの活動をしたくとも時間的にも心理的にも余裕が無いというのが実情ではないだろうか。

それでは、「学生時代に力を入れたことは何ですか?」という就職面接での定番の質問に対して、魅力ある答えができるだろうか。せっかく多くの体験をして心身ともに成長できる学生時代を、資格・検定のためにその大半を費やしてしまう結果になってはいないだろうか。学生が2年間で何を得るのか、という視点で考えた時に資格至上主義は改める必要があると思われる。

また、短期大学の存在意義という視点から考えた場合にも、資格取得のための専門学校とどこが違うのか、専門学校よりも優位性があるのか、あるとすればそれは何かという根本的な問題があるが、それに通底するだろう。

2-2 資格・検定の受検状況

では、資格取得がしやすい（推奨されている）環境であるといえる本学では、学生はどのような資格や検定を受検しているのだろうか。多くの講座が開講されている中、短期大学生が受検する傾向を知るため、エクステンションセンターの協力を得て、主な資格ごとに過去3年間の受検者数と合格者数を明らかにすることができた。

今回、企業の人事課へのヒアリングは金融機関に絞ったため、受検した資格に関しても主に金融系の資格を中心にして表にまとめた（表3）。

まず、金融系資格の代表格ともいえるファイナンシャル・プランニング技能士から見て行くと、2014年に2級の合格者が出ている。これは短期大学としてはかなりレベルが高い。3級は初級資格であるが、多くの金融機関は積極的に社員にこの資格を取らせているため、在学中に保有していることは「真剣に金融業界で働きたい」というアピールにも繋がると思われる。学科試験と実技試験に分けて受検できるため、段階的に取得することも可能である。

簿記検定は、全経簿記、日商簿記共に多くの学生が受検しているが、企業へのヒアリン

グではやはり日商簿記の評価が高かった。入職後に必ず取得する資格の中に、日商簿記3級を指定しているところもあった。電卓計算能力検定に関しては、毎年多くの学生が受検しているが、ヒアリングを行ったどの金融機関も「必要ではない」という見解だった。

他にも秘書検定、サービス接客検定の受検者が多いが、これは一昨年までは必修科目であり、ほぼ全員が受検したという理由による。資格としての優位性というよりは、検定受検のための学習が、社会常識一般を身に着けるために適していることから、短期大学の学生が受検するには適した検定であると言えるだろう。秘書検定準1級、1級になると難易度が非常に高くなるので、企業や業種によっては高い評価に繋がる場合もあると思われるが、これも実証的に研究したわけではないので、推論の域を出ない。

また、金融関連の資格としては、「金融窓口サービス技能士検定」があるが、これは知名度が圧倒的に低いせいを受検者はゼロであった。金融機関志望の学生には取得を勧めたい資格であるため、これから周知が必要だと言える。

また、小売業を志望する学生なら、販売士の資格も推奨資格であるが、こちらも受検者がゼロであった。スーパーなどの小売業においては、販売士2級レベルから資格手当を支給するという企業もあり、内容の一部は秘書検定と重複しており社会常識を学べるので、やはり今後の推奨資格と言えるのではないだろうか。

(表3) 本学学生の受検資格と合格率 (2014年～2016年上半期)

◆FP技能検定

年度	試験名	受検者数	合格者数
2014	FP技能検定2級	1	1
	FP技能検定3級	14	4
2015	FP技能検定2級	1	0
	FP技能検定3級(学科)	13	5
	FP技能検定3級(実技)	10	7
2016	FP技能検定3級(学科)	6	3
	FP技能検定3級(実技)	6	3

◆全経簿記検定

年度	試験名	受検者数	合格者数
2014	全経簿記能力検定試験2級	90	45
	全経簿記能力検定試験3級	132	108
2015	全経簿記能力検定試験2級	80	45
	全経簿記能力検定試験3級	110	107
2016	全経簿記能力検定試験3級	132	130

◆日商簿記検定

年度	試験	受検者数	合格者数
2014	日商簿記2級	42	3
	日商簿記3級	163	51
2015	日商簿記1級	6	0
	日商簿記2級	31	1
2016	日商簿記3級	162	25
	日商簿記2級	4	2
	日商簿記3級	6	3

◆電卓計算能力検定

年度	試験名	受検者数	合格者数
2014	電卓計算能力検定1級	1	0
	電卓計算能力検定2級	144	108
2015	電卓計算能力検定3級	102	74
2016	全経簿記能力検定試験2級	82	47

◆秘書実務検定

年度	試験名	受検者数	合格者数
2014	秘書検定準1級	8	1
	秘書検定2級	88	57
	秘書検定3級	148	126
2015	秘書検定1級	2	0
	秘書検定準1級	1	0
	秘書検定2級	108	103
2016	秘書検定3級	110	105
	秘書検定2級	5	2
	秘書検定3級	2	2

◆サービス接遇検定

年度	試験名	受検者数	合格者数
2014	サービス接遇検定2級	18	15
	サービス接遇検定3級	154	104
2015	サービス接遇検定2級	79	71
	サービス接遇検定3級	117	113

3 金融機関の人事担当者へのヒアリング

大学や学生サイドの状況がある程度把握できたところで、企業の人事担当者はどのような見解を持っているのかを調査することにした。

今回は金融機関に絞り、金沢市内に本店を有するJA金沢市、金沢信用金庫、北國銀行、しん証券さかもとの4つの金融機関の人事ご担当者の方々にご協力をいただいた。

ヒアリング時にアンケートを持参し、採用時のプロセスと共に、その中での資格・検定に対する評価を以下の7段階から選択していただいた。「だいたいのところ」という、い

わばご担当者の方々の経験による感覚的な選択であり、これらが絶対評価では無いことを言い添えておきたい。

<評価の7段階>

- ・ 有利と言える
- ・ やや有利と言える（ポイントになる）
- ・ 当確線上に複数名いればポイントになる
- ・ 好感度はアップする
- ・ 採否には影響しない
- ・ 影響はないが入社後必要になるので取得を勧める
- ・ 取得の必要はない

3-1. JA金沢市

ご存じのように農業従事者のための協同組合であり、その業務内容は広範に渡る。農家のサポート業務が主体ではあるが、貯金や共済などの金融機関としての業務もおこなっており、金融の知識は不可欠となっている。

人事ご担当のN氏によれば、資格や検定の保有者であるからと言って非常に評価するわけではないが、やはりそれだけ頑張ってきたのだという印象を与えることも事実であるということであった。業務に必要な資格などは、入職してから数年かけて順次取得して行くことになるので、在学中に取得しておかなければならないという事は無い。

JA金沢市の新卒採用者は本年度13名で、うち短大は3名。大学生の内訳は男子6名、女子4名となっている。渉外（外回り）と窓口担当は採用の時点で区別しており、当然ながら渉外であれば、1年目に共済を販売するために損害保険代理店の損害保険募集人資格が必要になり、その後は証券外務員Ⅱ種、Ⅰ種、金融個人情報保護、コンプライアンス、2級ファイナンシャル技能士（FP2級）を取得することになる。宅地建物取引士も取得推奨資格になっている。また、窓口業務であれば、金融窓口サービス技能検定、信用事業業務検定の他、金融個人情報保護やコンプライアンスについての知識が必要になる。3～4年間で7種の資格・検定を取得するペースなので、働きながら取得することは決して無理ではない。

なお、これまでは渉外は男子のみの採用であったが、今年から女子にも門戸を広げたそうである。今後、渉外で活躍する女性職員も増えるのではないかと思われた。ちなみに、女性管理職は約12%で、課長補佐レベルの職員さんがいらっしゃるとのことだった。

有利と言える	
やや有利と言える（ポイントになる）	
当確線上に複数名いればポイントになる	
好感度はアップする	証券外務員Ⅰ、Ⅱ種、FP2,3級、日商簿記2,3級、 所得税法能力、法人税法能力
採否には影響しない	
影響はないが入社後必要になるので取得を勧める	証券外務員Ⅰ、Ⅱ種、FP2,3級、日商簿記2級、 金融窓口サービス技能、日商簿記2,3級、電卓計 算能力
取得の必要は無い	コンピュータ会計能力、消費税法、秘書実務検定 1～3級、Access、TOEIC

3-2. 金沢信用金庫

資格・検定の有無が採否に関わることは無いとのことであるが、金融に関する資格・検定を保有していれば面接時に説得力があるのも事実と、人事担当者のK氏が語って下さった。金融に興味があるのだという事が分かり、「学ぼうとする意欲」があるという点は重視するとのことであった。もっとも、面接で最も重視するのは、提案力、営業力であるという。

内定後、入庫までに取得する必要があるのは、日商簿記3級。一般職が初年度に取得することになるものとしては、証券外務員Ⅱ種、生命保険募集人資格、損害保険募集人資格、入庫5年目を目処に金融窓口サービス3級などがある。総合職は、入庫5年以内に、3級ファイナンシャル技能士（FP3級）のほか財務3級、税務3級、法務3級の試験合格が必須である。また、年金アドバイザー3級、DCプランナー2級、投資信託3級、預金中級、融資中級などの試験から、どれか1つ合格しなければならない。毎日の業務と並行して資格取得の勉強をするのは大変な面もあるだろうが、業務について初めて理解することができるという要素も大きいのではないかと思われた。

短大と4年制大学の採用比は、2：8で大学が増えているが、やる気のある短大生は歓迎するという力強い言葉をいただいた。本学OGも多く、一般職から総合職への「キャリアチェンジ」も可能であるし、「キャリア保存制度」で退職後5年以内なら正規職員で戻れる（いくつかの条件を満たす必要がある）など、女性にとっては嬉しい制度も多い。

有利と言える	
やや有利と言える（ポイントになる）	証券外務員Ⅱ種、FP3級、金融窓口サービス技能、 日商簿記3級
当確線上に複数名いればポイントになる	
好感度はアップする	秘書実務検定2級、Word、Excel、Access
採否には影響しない	
影響はないが入社後必要になるので取得を勧める	
取得の必要は無い	

3-3. 北國銀行

人事担当のY氏にお話を伺うことができた。しかし、現在、女子の採用は大学卒が100%で、短期大学からは（本学だけでなく石川県内の短大）過去2年採用していないということであった。一般職をなくして総合職のみの採用となっており、一般職を希望する割合が多い短大生は受験者が減っているのかもしれない。採用に際して短大卒が無いということではなく、選考のプロセスの中で、短大生は淘汰されてしまうようだ。なお、総合職とエリア総合職の2つがあり、後者は自宅から通勤可能な範囲で転勤となるが給与は低くなる。

採否は資格や検定の有無ではなく、人柄、学力やバイタリティが採用の決め手になる。適性検査、複数回の面接によって判断される。

内定後、入行までに証券外務員Ⅱ種の取得が必要になる。資格取得については毎年見直しを行っており、昨年まではFP2級、年金アドバイザー3級が入行後の取得推奨資格だったが、現在は銀行業務検定の財務、税務、法務の各2級、外為3級となっている。

女性管理職は約1割だが、学歴的には高校卒（現在は採用していない）の女性もいる。リーダーシップが取れる人、周囲と協調して活動できる人が、採用に際しての望ましい人材像ということであった。

有利と言える	
やや有利と言える（ポイントになる）	
当確線以上に複数名いればポイントになる	証券外務員Ⅰ、Ⅱ種、FP2級、金融窓口サービス技能、日商簿記2級、コンピュータ会計能力、ビジネス会計、ITパスポート、TOEIC
好感度はアップするが、採否には影響しない、	所得税法能力、法人税法能力、消費税法能力、電卓計算能力、秘書実務検定1～3級、サービス接遇検定1～3級、Word、Excel、Access
影響はないが入社後必要になるので取得を勧める	
取得の必要は無い	

3-4. しん証券さかもと

地場証券として地元に着している証券会社であり、武蔵ヶ辻という非常に立地の良いところに本店がある。歴史は古く創業は明治期である。取締役のM氏にお話を伺った。

証券会社ということで社員の男女比は3：1。どうしても男性営業職が多くなり、女性は少ない。採用は営業部門と事務部門に分けて行い、事務部門は定期的な採用を行っていない。短大と大学の比率は、営業で1：3、事務部門では同比であるということ、入社後の部門の変更はできない。しかし、取次をして応接室まで案内してくれた一般事務職の女性は、大変喜ばしいことに本学のOGということであった。

資格に関しては、選考の際に合否を決める要素にならないとしながらも、好感度が上が

るものとして、証券外務員Ⅱ種とⅠ種を挙げられた。一般的に、証券会社では、ほとんど内定後に証券外務員Ⅱ種とⅠ種を取得することとなっているので、これは当然とも言えるだろう。

有利と言える	証券外務員Ⅰ種、FP2級
やや有利と言える（ポイントになる）	証券外務員Ⅱ種、FP3級、コンピュータ会計能力、Word、Excel、Access
当確線上に複数名いればポイントになる	日商簿記2級
好感度はアップする	日商簿記3級、秘書実務検定1、2級、サービス接遇検定1、2級
採否には影響しない	金融窓口サービス技能検定
影響はないが入社後必要になるので取得を勧める	
とくに取得の必要は無い	秘書検定3級、ITパスポート、電卓計算能力検定、TOEIC

2008年頃に筆者が教えていた4年制大学の経済学部の学生は、地元の証券会社に内定した際に入社後にⅡ種から取得すれば良かった。しかし、2009年からは同じ証券会社でも入社前にⅡ種を取得するようにという形になり、さらに翌年はⅡ種、Ⅰ種の両方を入社前に取得することになった。しん証券さかもとでも例外ではなく、入社前にこの資格を取得することになっている。現在、証券会社のみならず多くの金融機関で販売したい金融商品として、投資信託があるが、これを販売するには証券外務員Ⅱ種の資格が不可欠なのである。生命保険を販売するには生命保険募集人資格が、損害保険の契約を取るには損害保険募集人資格が必要なように、この資格がなければ証券マン（ウーマン）としての業務が出来ないわけであり、資格としての重要性は明らかであると思われる。

従って、証券会社に就職して営業職で頑張りたいという希望があるなら、面接の際にすでに外務員の資格を保有していれば、真剣さをアピールできることになろう。Ⅱ種はとにかく、学生でⅠ種まで取得していると評価に繋がるらしく、筆者のゼミナールにいた学生は成績が芳しくなかったものの、Ⅰ種、Ⅱ種とも独学で取得しており、一部上場の証券会社に内定した。大学のブランドや学業成績よりも資格の有無が決め手になったと思われる実例である。

おわりに

今回は当初50社程度の企業（本学の学生が就職している企業を中心に）に、資格・検定に関するアンケート調査を行いたいと考えていたが、時間的な余裕がなく実施が出来なくなったために定量的な分析が行えなかった。そこで、一般的な業種よりも、より資格が必要であろうと考えられる金融業界に絞って、ヒアリングを試みた。農協、信用金庫、銀行、

証券会社とジャンルは分けたものの、1ジャンル1社（行・庫）の取材であり、同業他社での比較が出来なかった点も残念なことである。

さらに、ヒアリングにご協力いただいた人事ご担当者の皆さまも、あくまで個人的な見解であるという前置きの上で、ご回答をいただいているため、統計的に有意であるといった結論は当初より期待できないものである。しかし、同じ金融業界と言えども、資格に対する評価の格差（温度差）があるという点や、入職後に取得が推奨される資格の種類についての情報も得ることができた。

どのご担当者も、資格の有無よりは人柄、意欲、情熱などを重要視すると答えて下さり、本学学生は取得資格の数に一喜一憂するのではなく、社会人基礎力に見受けられるような人間的な力を身に着けることの重要性を認識すべきであると再認識させられた。

しかし、現状でやみくもに資格・検定を増やそうとしている学生が存在することも否めない事実であり、初年次に望む就職先や業界のおおまかな選択をした上で、その業界や職種にとって最も望ましい資格・検定のみを精選して受検し、取得するという方向への水先案内も不可欠であると思われる。2年間という短い履修期間では、批判があらうかと思われるが、やはり初年次のしかも前期に明確な方向性を示すガイダンスが必要であると考えている。

今後の課題としては、一般職（一般事務）などを目指す場合に、資格や検定がどこまで重要視されるのか、実務に就くにあたって取得していると有利、あるいは好感度が増すものは何かなどについて、量的な調査を行いたいと考えている。

<参考文献>

1. 松崎陽子 編 『新 貴女を生かす資格&技術情報BEST70』日本法令 1990
2. 岸本哲也 松崎陽子 「地方小規模大学における就職支援体制」 「地域研究」第11号〈通巻21号〉長岡大学 地域研究センター 2011
3. 松崎陽子 「短期大学における初年次教育の現状と課題」 「星稜論苑」第43号 2014

